

1 本年度の重点目標

- ・全職員の協働により、全ての生徒が自らの意思で、心身の健康を維持増進し、活力ある学校生活を送ることができるよう支援します。
- ・全教職員が目線を合わせ、多様な他者を認め合う豊かな心を育成する指導・支援をします。
- ・すべての教育活動に探究的な学びを取り入れ、意図を持って知識や技能を獲得するとともに、それらを活用する学びを支援します。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をとおして、学び続ける力を身に着ける支援をします。
- ・本校の定めた進路デザインをとおして、たけたかくあるよう、自らの将来に高い志を掲げるよう支援をします。
- ・何事にも挑戦し、地域や世界の諸課題に向き合い、答えのない課題を発見し解決する力を身につける支援をします。

2 本年度の経営方針

- (1)学力の三要素をバランスよく育む指導方法の研究と実践を進め、研修体制を強化する。
- (2)シラバスの充実と授業の改善を進め、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現できる学習を推進し学力向上を図る。
- (3)生徒や保護者の求める授業となるよう常に改善に努めると共に、学習評価の工夫改善を図る。
- (4)総合的な探究の時間においてだけでなく、教育活動すべてに探究的な学びを導入する。
- (5)自他の生命を共に尊重しあうことのできる生徒の育成に努め、全教職員の共通理解に立った一元的な生徒指導・支援体制を構築する。
- (6)生徒の観察と気づきに基づく生徒指導・支援に努めると共に、家庭・地域・関係機関との連携と、きめ細かい指導・支援体制の充実を努める。
- (7)自律と自立の心を育て、生活環境・自然環境・公共施設等を大切に社会人の育成を目指し、生徒の基本的な生活習慣の形成を図る。
- (8)常識的なマナー指導に努め、ネットトラブル・いじめの防止を図る。
- (9)カウンセリングマインドに立った生徒の自己肯定感を高める指導・支援を行うと共に、スクールカウンセラーとの連携による教育相談と個別の支援体制の充実を図る。
- (10)高校生活を通して生徒自身の力で体系的・発展的にキャリアデザインの構築ができる体制を整える。
- (11)生徒が主体的に取り組む進路探究学習や進路啓発行事の充実を努め、将来に対する目的意識が明確になるよう、生徒の自己理解を深める指導を行う。また、進路講習や小論文指導の充実を図る。
- (12)主体的で望ましい進路設計ができるよう、個別指導や、生徒・保護者への積極的な情報提供に努める。
- (13)生徒の健康管理に努め、健康な学校生活を送ることのできる指導と情報提供を図る。
- (14)安全・安心な学校環境整備と、定期的な安全確認や防災・防犯体制の維持に努める。
- (15)交通安全教育推進と通学路の安全確保ならびに校内での緊急避難指導の充実を努める。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善の方策の適切さ
学校教育目標等	生徒一人一人が学校生活に充実感と達成感を感じられるような目標設定と指導がなされているか。 対応するアンケート項目 (生)問1～6、24～25 (教)問1～6 (保)問1～3、18～19	A	「入学して満足しているか」については、生徒92.7%、保護者91.9%が肯定的な回答であり、R6年度とほぼ同水準を維持している。また、「他者の良さに気付く機会、他者との協力」に関する質問では、生徒の96%以上が肯定的な回答をしており、本校の教育活動による一定の成果が見られると考えられる。 一方、「自分の良さに気付く機会」に関する質問では、生徒の肯定的な回答の合計が86%と90%を下回った。年次が上がるにつれて肯定的な回答の割合は増加傾向（1年次83%、2年次85%、3年次90%）にあるものの、引き続きの課題の一つと捉えている。 さらに、「自分らしさを発揮できる場面があるか」という質問では、肯定的な回答をした生徒は昨年並みだった。生徒が自身の良さに気づき、自分らしさを発揮できる機会の充実を図る必要がある。（本課題は昨年度から継続している。）（全年次） 加えて、「地域社会との関わり」に関する質問のうち、「地域貢献」に関する質問では、生徒の肯定的回答が合計79.9%（R6:83.4%）と、昨年度から低下が見られた。探究活動等において、リサーチアクションの内容に工夫を加えたりすることで、この点において変化が起こるのではないかと考える。探究的な学習を通し、社会に貢献する力を身につけさせたい。	A	A
	生徒・保護者に対し、必要な情報が適切に発信され、説明が十分にされているか。 対応するアンケート項目 (生)問7 (教)問7 (保)問4～5	B	本校のホームページ（HP）に関する質問では、生徒の85%以上は閲覧をしたことがあると回答した。HPの内容の充実差に関して保護者の約25%が否定的な回答をした。また、「保護者や地域の方への情報発信の充実」に関する質問における保護者の肯定的な回答は73.6%で、R6度を約5ポイント下回った昨年の結果からの改善が見られなかった。また、保護者の約2割から情報発信が十分ではないとの回答があり、ホームページの内容を精査するとともに、校内連絡ツール（すぐー）、Google Classroom、PTA集会などを活用し、生徒・保護者・地域の方々への情報発信を引き続き充実させていく必要がある。	A	A

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年7月に近隣町内会と連携し「ゴミ拾いボランティア」を行ったのは、とてもよい取り組みだと評価いたします。「地域貢献」に関する質問で生徒の肯定的回答が低下しているようですが、来年度もこのような活動を地道に続け、地域や社会の課題に向き合い、実行できる力をつけてほしいです。 ・HPの内容に関しては、昨年度よりも見やすくなっていると感じるが、生徒の活動について、更新掲載した際は、その事を“すぐる”などでお知らせしてもらえると、閲覧するきっかけにつながると思う。地域への発信の仕方は、もう少し知恵を絞る必要があると思います。 ・同窓会の情報についても、母校のホームページを利用させていただいているが、行事や日常生活について掲載があると、同窓生もホームページで、後輩たちの活動が感じられると良いと思います。 ・生徒・保護者に対し、必要な情報が適切に発信され、説明が十分になされているか。については、保護者によって要求の度合いは異なります。その中で否定的な回答が20%程度にとどまっているのであれば、学校の取組としては問題ないと考えます。また、この結果を真摯にとらえ改善の方向も示されていることは評価できます。 ・入学後の満足度について生徒、保護者ともに90%以上が肯定的な回答というのは大変評価できます。 ・「自分らしさを発揮できる機会」では年次が上がるごとに上昇しているのは、学校生活の中で成功体験や達成感を味わえる機会が増え、自分を発揮できる機会が積み重なっていることの裏付けではないでしょうか。今後も、生徒それぞれが表現する場面で教員だけでなく周りの生徒たちも寛容で肯定ファースト的に受容できる環境の醸成を育てていけたらいいのではないかと思います。 ・「すぐる」の活用により学校からの諸連絡が遅滞なく、また漏れなく保護者に伝わることになり、印刷コストの削減だけでなく、「情報が伝わらない」といった以前の問題がなくなり良かったのではないのでしょうか。今後も、保護者が自ら情報を得られる環境づくりが必要ではないのでしょうか。 		
<p>分野</p>	<p>評価項目</p>	<p>自己評価</p>	<p>学校関係者評価</p>
		<p>達成状況</p>	<p>達成状況の適切さ</p>
		<p>改善の方策</p>	<p>改善の方策の適切さ</p>
<p>学習指導</p>	<p>生徒自身が主体的に学びに取り組むよう、適切な指導を行い、生徒が獲得した知識や技能を活用する学びがなされているか。 対応するアンケート項目 (生)問8～10 (教)問8～10 (保)問6～8</p>	<p>A</p> <p>「将来の目標や夢に向かって主体的に学ぶことができているか」という質問に対する肯定的回答の割合は、生徒・保護者ともに年次が進むにつれて増加傾向にあり、特に生徒は1年次から3年次で9.7ポイント上がっている。これは、上級生になるにつれて高校卒業後の進路に向けた具体的な活動が増える中で、本校の教育活動の積み重ねが生徒自身の将来へのつながりとして強く認識された結果であり、一定の成果を収めていると思われる。また、「情報をもとに根拠を求めながら考える力」が身についたかという質問についても、年次が上がるにつれて肯定的回答の割合が8.7ポイント増加した。これは、各教科における課題探究的な学習やICTの効果的な活用、協働的・対話的な学習などを積み重ねた効果が表れているものと考えられる。また、「適切な言葉で自分の考えを分かりやすく伝える力」や「情報をもとに根拠を求めながら考える力」が身についたかという質問については、2年次の肯定的な回答は88%、3年次では96.3%であった。2年次は自ら考え相手に伝える力が求められる場面が多く、その難しさを実感し、3年次ではその積み重ねが結果として表れていると考えられる。今後も、継続して協働的・対話的な学びやプレゼンテーション練習、地域との交流など様々な経験を通じて、これらの力をさらに伸ばし、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現できるような授業を構築するため、教員一人一人がさらなる研究と努力を重ねていく必要がある。(教務情報部)</p>	<p>A</p> <p>A</p>
	<p>生徒が何事にも挑戦し、課題を発見・解決する力を育むとともに、探究し続けることのできる学びの機会が提供されているか。 対応するアンケート項目 (生)問11～13 (教)問11～13 (保)問9～11</p>	<p>A</p> <p>「総合的な探究の時間を通して、視野が広がったり学が意欲が高まったりしていることはあるか」及び「新しい課題を見つけて解決する力が身についていると思うか」の質問に関し、昨年同様肯定的な割合が高かった。また、視野の広まりや意欲向上に関する質問に対する保護者の肯定的割合が昨年に比べ高く(R7年度87.2%、R6年度80%)、探究学習の意義が浸透していると思われる。さらに、保護者の、課題解決の力に対する質問への回答は、年次が進むにつれ、肯定的回答の割合が大きく上昇しているのが特徴的である。(1年次68%、2年次76%、3年次84%)。これらの結果は総合的な探究の時間の活動の成果のひとつと思われる。引き続き、総合的な探究の時間はもちろん、日々の授業について、生徒の興味・関心を引き出すことができるようにするための教材研究を重ね、授業改善を行っていく必要がある。(ミライデザイン部)(教務情報部)</p>	<p>A</p> <p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・藻岩高校の特色の1つである探究活動の意義が年次があがるにつれ、生徒に理解されている結果の現れだと思えます。生徒の興味・関心を引き出す働きかけの改善はもちろん、主体的に取り組む事の大切さをあわせて指導できると意欲向上に繋がるのではないかと思います。 ・学校を訪問をした際の生徒たちの挨拶や、こちらから質問をした際の受け答えは、礼儀正しく好感をもてるものだった。日頃の先生方の指導のたまものだと思う。 ・年次進行に伴う主体性や思考力の着実な向上に加え、探究学習への理解も深まっており、自己評価Aは適切と言えます。 		

進路指導	生徒の自己選択や自己決定を育むガイダンスを充実させ、主体的で望ましい進路デザインができるよう指導・支援がなされているか。 対応するアンケート項目 (生) 問14～15 (教) 問14～15 (保) 問12～13	A	「単位制の教育課程は、学びたい内容や進路希望に応じて自由に選択できるものか」の問いに対し、生徒・保護者ともに肯定的な回答が9割超となっており、単位制の教育課程や進路実現に向けた進路支援が一定の成果を上げていることがうかがえる。また、「藻岩の授業や環境が目標達成に役立っているか」の質問編回答も、生徒・保護者とも約9割が肯定的であった。今後、「あてはまらない」という回答の要因を分析するとともに、生徒が探究活動で得た経験や学びを自身の進路に結びつけられるような支援を一層重視しながら、生徒一人一人が自らの興味・関心や目標を深く考え、それを基に自信を持って進路をデザインできるよう、進路支援体制をさらに充実させていきたい。(ミライデザイン部)	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びを選択できることが進路デザインに役立っている結果だと感じます。単位制や探究活動での経験を落とし込むための具体的な行動をよりご指導いただくと、さらなる充実につながるのではないのでしょうか。 ・先日、交換留学生だった米国人を校内見学させていただいた時の、生徒たちへの英語での質問に対し、しっかりと英語で答えているのを見て、感心しました。 ・9割超の肯定的な評価に加え、未回答層への分析と支援強化という前向きな姿勢を含め、評価Aを支持します。 ・十分成果が得られていると評価します。 				
分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善の方策の適切さ
生徒指導	常識的なマナーを意識させる指導を共通意識をもって行うことで、自律と自立の心を育てるとともに、生徒の基本的な生活習慣が確立される指導がなされているか。 対応するアンケート項目 (生) 問16、20 (教) 問16 (保) 問14	A	「自己管理スキルの向上」について、生徒のおよそ90%が肯定的な回答をしている一方、「保護者と教員は肯定的な回答が70%台であった。また、「自転車マナー・交通安全」について、生徒のおよそ90%が肯定的な回答をしている一方、教員の25%が否定的な回答をした。この隔たりは、生徒は「気を付けている」「意識している」といった内面の変化を評価し、保護者や教職員は外に現れた行動を評価していることによるものと思われる。そのため今後、質問方法の工夫が必要と考える。 今年度も自転車通学時の車や歩行者との接触事故や、駐輪場でのパンク被害などがあり、継続した指導を行っていく。(学校生活部)	A	A
	個々の生徒の多様性を受け止め、悩みやいじめに関するアンケートや面談を通して生徒に寄り添った生徒指導・支援がなされているか。 対応するアンケート項目 (生) 問17～19 (教) 問17～19 (保) 問15、16	A	多様な生徒がいる中、約80%の生徒及び保護者が肯定的な回答をしており、また、教職員の肯定的な回答も85%以上であった。これは、悩みやいじめに関するアンケートや面談、日常生活での生徒と教職員のコミュニケーションが機能しており、教職員の姿勢が一定程度、生徒に伝わっていると考え。 今後も生徒個人に寄り添う指導を継続し悩みや相談に適切に対応していくべきである。SCとの連携も継続していきたい。(学校生活部)	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・常識的なマナーの指導は学校というより家庭ですべき事だと思います。ただ、制服を着用している事で、学校へ連絡がいき、先生方が対応して下さる。大変申し訳ない事だと思います。問題がおきた時は“すぐる”などをとおし全保護者にも共有してはどうでしょうか。その際、対応内容などをとも記載し、当事者出なかつたとしても、再認識する機会になると考えます。個々の生徒の多様性に関しては、職員室での情報共有と対応の一貫性が大切と考え、今後も引きつづきSCとの連携が大切だと思います。 ・時々バスを利用したときに、通学中の生徒たちの会話を耳にすることがあるが、友人同士の他愛のない会話の中で、生徒たちの学校生活が何われ、落ち着いた日常を感じることが出来ます。 ・高い相談満足度と、安全指導への客観的な課題認識が示されており、総合的な判断として評価Aは適切です。 ・「自転車通学」の課題はおそらく恒久的なものと思われるが、道路交通法の改正等もあり、より使用者のモラルやマナーが厳しく問われますので、自転車を使用する生徒や保護者への啓発・対策(ヘルメット着用は努力目標ではなく学校として義務付ける)が必要と考えます。他者への思いやりがあってこそその交通安全ではないのでしょうか。 				
健康安全	教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取り組みが行われているか。 対応するアンケート項目 (生) 問21～23 (教) 問20～23 (保) 問17	A	約8割の生徒、保護者、教員が良好と感じている。一方、避難訓練について、教員の肯定的な回答の割合が75%と高くはない。今後より実用的な訓練にシフトしていく必要がある。 今後も安心安全な学校生活を送ることができるよう各種行事への参加や長期休業前の事前指導など適宜指導を継続していきたい。(学校生活部)	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みが良好であると評価できる。ただ昨今の災害や犯罪は多様化しており訓練や指導の内容のアップデートは必要不可欠。知らぬ間に高校生をターゲットとするような犯罪の当事者になりうる危険についても注意喚起が必要と考えます。 ・我が校は、藻岩山や豊平川の近くであり、大規模な自然災害が発生した場合影響を受けやすいと思われます。ご指導をよろしくお願い致します。 ・8割が安全を実感する良好な環境に加え、訓練の実用化を目指す改善意識を評価し、自己評価Aは妥当です。 ・地震や水害、雪害など自然災害が近年ますます頻繁に発生することを踏まえた普段からの意識付けが大切ですね。 ・学校生活(授業や部活動)においても暑さや感染症等にも留意しなければならず、先生たちも大変かと思いますが、引き続きよろしくお願い致します。 				